

会報

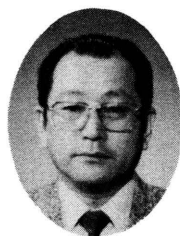
No. 26

平成3年11月25日

京都府図書館等連絡協議会

事務局

京都市左京区岡崎成勝寺町9
京都府立図書館内
TEL(075)771-0069



落

書

京都市中央図書館長

北川 恵 三

の場所だ。

四、ここは老人ホームだ。

五、よく反省しろ、管理者。

六、何んと恥しらすのことを書くな、

京都市民の恥だ。これからは高齢

化社会を迎えて老人がふえる。老

人の生涯学習のために図書館の使

命は大きい。年末年始しか休まず

八時三〇分まで開けてくれている

図書館がどこにあるのか、中央図

書館の職員に感謝すべきだ。

七、他に行くところないのか。

八、老人は少年より真の勉強家だ。

といったところである。

他には計算式が乱れた数字で書

き込んだ程度で貼紙には残さ

れた余白も少ない。老人に対する

問題表現と思われる文言以外特に

反社会的、差別的表現はなく当館

として共に考えるべき問題提起と

も受けとめることができる。この

ような落書の指摘の中で今、京都

市の図書館は地域館を含め十四館

が設置されており、生涯学習時代

の主要な一翼を担っていると自負

している。

しかし、図書館の平均施設面積

は六七二㎡、全蔵書数九四四、三〇六冊(平成二年度末現在)で政令都市の中では面積で十位、冊数で九位と下位にある。ただ利用冊数は五位で中位に位置している。

財政事情等から施設整備、蔵書数の増加に向けての努力もかなり厳しい事情にあるが利用者のさらなる増加に向けて巡回図書館車をも最大限に活用し、老若男女を問わず市民に広く親しみの持てる図書館とするため職員一同努力を重ねているところである。そのためにも市民と共にある図書館、裸の王様にならぬよう利用者の声を幅広く聞くことが大切であると考えている。

幸い、京都市中央図書館は、本年設立十周年という節目の年を迎え、広く利用者から図書館に対する意見や希望、思い出等を感じ文、回想文として募ることにしておりこの拙文が会誌に出る頃には投稿文の山に囲まれているかも知れない。その中で利用者の声を聞かせて貰い、市民の、大衆のための親しみやすい、明るい明日の図書館づくりに役立てて行きたいと考えている。

貴重な「会報」紙面を着任六ヶ月の新米館長の落書で汚して申し訳ありません。皆様方のご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願いする次第です。

トイレは禁煙である。
我が図書室もご他聞にもれず禁煙である。しかし、利用者への周知が甘いのか相変わらずトイレで煙草を吸う人が何人かある。煙害と吸い殻で不快極まりない。
そこで止むをえず美しいトイレの中の壁面に墨痕鮮やかに能筆家の手を煩して「禁煙」と貼紙をした。
数日にして喫煙の気配は減ったように欲目には思われた。が、しかし新たな現象が出現したのである。
先程の「禁煙」と書いたその貼紙の余白に鉛筆やボールペンで図書館に対する意見具申?のようなものが書き込まれていたのである。
筆跡で判断すれば提供者は八名程と思われる。提供者の承諾なしにここにこれを掲載することは好ましいことでないだろうが、提供者不明のため止むを得ず一応順番を整理して原文のまま拾いあげると
一、この図書館には自習室がない。
茨木や高槻市にはあるぞ。
二、だったらそこへ行け。
三、賛成、私はこんないい図書館はないと思っている。私の魂の憩い

第二回理事会報告

十一月十五日(金)、京都府立図書館において、第二回の理事会が開催されました。

各委員会から平成三年度、上半期事業について報告があり、今後下半期の事業予定として、研修研究委員会から児童奉仕実態調査、相互協力委員会からは現在、集約中の相互協力実態調査を分析し、冊子化して加盟館に配布すること。広報委員会からは、26・27号の発行計画などの報告がありました。

続いて、予算執行状況について報告があり、研修活動助成金の受入れに伴う予算補正が了承されました。

また、本理事会の主要な議題の一つである「公立図書館振興に関する要望書」について、昨年のものを基礎として京都府知事、教育長に対しては市町村図書館援助施策の実施の要望。図書館設置市町長と、教育長に対しては、内容整備の充実等の要望。図書館未設置町村長、及び教育長に対しては設置等を要望して行くことが、決定されました。



研修研究委員会(一泊研修)

京都府図書館等連絡協議会主催の一泊実務研修会が十月十七日・十八日、城陽市アイリスイン城陽で開催され、府内の公共図書館、公民館図書室から四十五名の参加がありました。

今回は、特に京都府立図書館の広域振興事業の一環の中でできた、新しい町図書室からの参加があり、図書館建設等に向けて熱心に討議され実りのある研修会でした。

研修内容

一、基調講演「魅力ある図書館」

講師 滋賀県立図書館長

澤田正春氏

二、事例発表(一)

1 雑誌・新聞の収集について

2 図書館員の接遇について

講師 八日市市立図書館司書

松宮透氏

事例発表(二)

図書館の建築・館内レイアウト

講師 鬼頭梓建築設計事務所長

鬼頭梓氏

一泊研修会に参加して

丹波町中央公民館図書室

谷口玲子

今回、初めて一泊研修会に参加させていただきました。

講演や事例発表を聞く中で、自分の勉強不足を再認識しました。

今現在の私は、「自分も利用者の一人」という意識で運営に携わっていますので、これから少しずつでも勉強して、「プロ」に近づいていきたいと思っています。

また、「建物は愛情をもって大切に扱ってほしい」という鬼頭氏の言葉には、耳が痛くなりました。そこで、帰ってから改めて見ますと何やら乱雑でしたので思わず片付けにかかってしまいました。ポスターの張り替えや不要物の処理、それだけでも見違えた感じになり、あの言葉を実感しました。

自館(室)は、本当に未熟ですが、それだけに多くの可能性を秘めていると思います。そう思えただけでも今回の研修に参加してよかったと思います。

もちろん、他館の皆さんと交流ができたことでも、大きな収穫がありました。有難うございました。

相互協力委員会

日時 平成三年十一月二十八日(木)

午後一時三〇分～四時

場所 京都府立図書館3F研修室

内容 平成二年度相互貸借実態調査の結果について

近公図研究会予定

「平成三年度」

児童部門研究会

日時 平成四年一月三十一日(金)

場所 大阪府立婦人会館

整理部門研究会

日時 平成四年二月六日(木)

場所 京都・平安会館

参考部門研究会

日時 平成四年二月二十日(木)

場所 和歌山市民会館市民ホール



田辺町立中央図書館
ビデオテープ閲覧棚

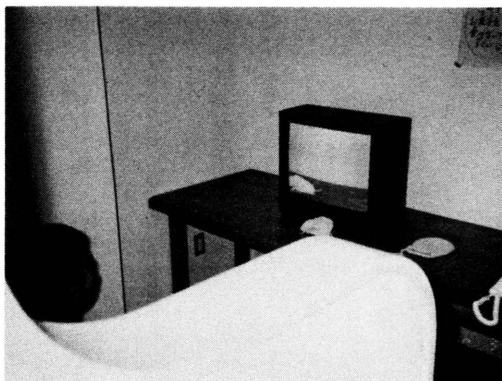


図書以外での情報提供

田辺町立中央図書館

関西文化学術研究都市の北部地域に位置し、高度情報化を目指す田辺町。この図書館が情報発信基地になるよう、町全体が注目している。町は、テレトピア構想指定地域の指定（精華町・木津町の三町で）を受け、また、ハイビジョンミュージアム推進協議会にも加盟。テレトピア構想の中には、図書館資料等の情報提供等があり、図書館としても様々な意見を出している。

そこで、田辺町にできた中央図書館には、図書館とは単に、本貸し屋では無い。図書以外の情報も提供していく。と、いうことで視聴覚コーナーを設置。一階のブラウジングコーナーに映像ブース（三人用・一人用が、それぞれ三つずつ。三人用で最高六人分・一人用で最高二人分のヘッドホンが使用可能）と試聴席（十席）がある。音楽等も図書と同様、いろんなものをかじってもらおうとこの場に設けた。映像・音声は、全てカウンターからの送り出し。映像資料はリクエストによるもので、映像ブースの利用は、一週間前から利用受付も行っている。殆どのビデオは貸出中のために、貸出できない



LDの利用が大半を占めている。音響資料は図書館側で選んだCD・カセットテープとラジオ放送を常時送り出すほか、リクエストにも対応している。BGMを館内に流しているためか、映像ブースに比べると利用は少ない。開架室に入ってすぐのところに、PRコーナーを設けている。ここでは、37インチのモニターに、いつも文字放送を流しているが、夏休みには高校野球の決勝戦や世界陸上が行われていたときは、それらの映像を流していた。特にカール・ルイスの予選での走りには、多くの人がこのモニターを取り囲んだ。

続いて資料のことであるが、映像資料はビデオテープとLD・音響資料はカセットテープとCDがある。

LDと一部の視聴覚資料以外は、貸出可能で七月～九月で約五、五〇〇タイトルの貸出があった。貸出用の資料が約一、〇〇〇タイトルなので、全ての資料が既に五～六回の貸出をした計算になる。予約は、返却待ちのみの受付を行っている。ある資料は、既に来夏の提供予定のものまで出ている。貸出期間は図書と同様二週間。

二階には、集会室・会議室がありどちらもビデオテープの利用とテレビ受信が可能であり、そのほか集会室には、一〇〇インチのスクリーンに映像を映し出すビデオプロジェクターがあり、ビデオテープ・LD・テレビ放送を映し出すことが可能。特にビデオテープは、SVHS・Hi8・EDベータの他、海外の放送方式の違うテープを交換できるビデオデッキがある。スクリーンは、これからのハイビジョン放送にも対応した横長であり、現段階では16mm映写機・スライド映写機も設けているので映写可能である。音響資料は、CD・カセットテープの他レコード・オープンリールも利用できるようになっている。これらの機器は全て準備室に納めてあるが、集会室内のレクチャー卓での操作も可能である。このビデオプロジェクターへは、一階の送り出し機器からの信号の受信が可能である。準備室には集会室

で利用する機器のほか、家庭レベルの編集機器を設置してある。これまでに行事の案内を一つ作っただけであるが、ポスターやちらしよりも反応は大きいようで、行事には「テレビで観たし来た」という子どもたちが多かった。また、地域資料となるもので動きのあるものは、映像による保存が必要であり、手作りの地域資料をこの編集機で作成していきたいと考えている。

紹介したいことは他にもいっぱいありますが、これだけのスペースでは紹介しきれない、利用の仕方や可能性を秘めている田辺町立中央図書館。是非一度見に来てください。できれば、ゆっくり案内いたします。



図書館講座

親子のふれあい教室

園部町立園部図書館

小峰 美子

六月から十月にかけて図書館講座「親子のふれあい教室」を開催しました。

講師 大山崎町図書室

石井満紀子先生

一回目 おはなし大好き

ヤクルトのびんで、指人形

ができました

二回目 おはなしでつくろう

ティッシュのあき箱で、うさぎとかめの、そりをつくって競争しました。

三回目 おはなしが絵になった

卵のからで、好きな絵をかきました。

四回目 動物のおはなしなんだ

折紙で動物園をつくりました。

五回目 おはなしをつくろう

のりも糸も使わない、世界でたった一つの絵本ができました。

お楽しみ会(OHP) くらやみ紙芝

居：パネルシアター

人数は十名前後でしたが、毎回熱心に来られ、わきあいあいの楽しい

教室になりました。

夏休みに親戚の子を連れて来られたりして、にぎやかでした。その子たちが都会の家に帰り、夏休みの課題に卵の絵を出したら、教室中から教えて欲しいと言う声があがり、とても得意になったそうです。お母さんと一緒にふれあい、本を通してのスキILLSを学んでいただき、これからの親子のふれあいについて、何か感じとっていただけたなら幸いに思っています。

私自身何かと忙しく、講座も半分くらいしか、顔出しする事ができず残念でした。いつか母親になった時、大切なものを、何か見つけたような気がします。本当に素晴らしい教室でした。

このような催しをこれからも、ずっと続けていき、より一層図書館を活用していただけるよう頑張ります。



移動図書館車

『はごろも』号

運行はじまる

峰山町立図書館

下戸 明夫

人口一万五千人の壁を突破したいと町おこし地域振興に必死の町が、

創立四十周年を迎えた町立図書館に移動図書館車を購入、今夏から運行を始めました。

蔵書数約三万冊、年間貸出約三万冊、貸出登録者約千四百人（人口の約一〇％）小さい乍ら三郡唯一の町立公共図書館とちっけな誇りをもっている田舎町の図書館です。

移動図書館車は、トヨタダイナの小型ルートバンで、一、〇〇〇冊積載の本格的なBMです。

名称は公募で、町の羽衣伝説にちなんで「はごろも」と命名されました。



運行地域は、図書館より二km以上の十六の地区を大別四つに分けて、

二週間毎に訪問します。訪問する地区の中には、二〇〇戸を越す所もあれば僅か二四戸の所もあります。

なつかしい童謡や唱歌のメロディを流し乍ら地区公民館等の前に停めて、地域の子どもや人びとと歓談し少しでも本を利用し読んで頂くとう一生懸命です。

一巡第一回目、二四八人、六四二冊。二巡目、二四三人、六一四冊。

三巡目、一八〇人、四四三冊。（台風で五地区中止）という数字は、まずまずといったところですが、一巡して六〇〇冊の本が出て、補充にあわてたという一幕もありました。

「便利になった。」「地元まで来ていただけてとても喜んでいきます。」「はじめて図書館の本を利用します。」

「こんなやわらかい読物の本も図書館にねえ。」「足がだんだんと不自由になって本館までとは思っていません。」等々色いろな利用者の声に励まされています。

丹後は雪国です。これから冬季の運行を想うと大変です。車はスノータイヤ装着、チェーン持参は勿論のこと、長靴にスコップ持参となります。雪の降りしきる中、さてどうして貸出業務をすすめるか。雪の夜、コタツで読書を楽しんで頂くために、工夫や頑張りが期待されています。

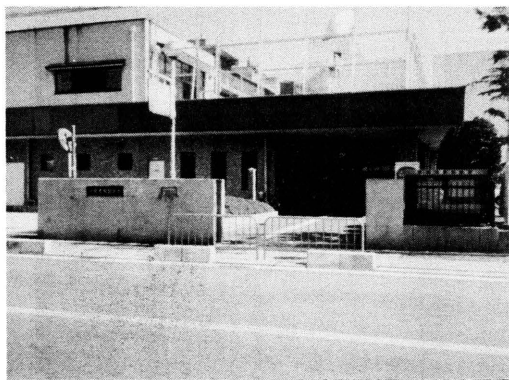
図書館めぐり

京都市南図書館

南区九条南山王町に建つ南図書館は、昭和五十四年に社会教育会館南分館として開館しました。その後、昭和五十六年四月地域図書館になり、南図書館と改称して現在に至っております。

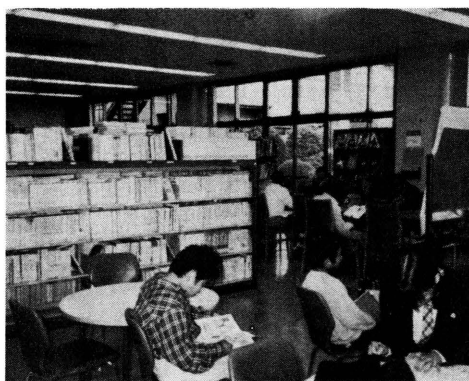
当館の敷地は、平安京の陶化坊の位置にあり、東洞院大路の溝跡が竹田街道に面した前庭から発掘され、史跡として保存されています。また、藤原氏が東九条に九条殿を構え、摂関家代々の本邸のあった地域でもあります。

建物は鉄筋一階建てでしたが、昭



和五十七年七月二階に山王児童館が造られ、二階建ての併合施設となっています。

施設内の庭は、『読書に疲れた目を、なごませてくれる緑を多く』との住民要望に应运えて作ったもので、緑の芝生、ケヤキ、ツバキ、サツキなどが植え込まれています。



図書室は、この庭に面し四季おりおりに咲く花が、利用者の心を一層なごませてくれています。

当館では、親しみやすい図書館作りの一環として、大型紙芝居、パネルシアター、人形劇等の行事を行ったり、また新刊コーナーを中心に各図書の特設コーナーを設けるなど利用しやすいよう工夫し、それぞれくつろいで読書を楽しんでいただけよう配慮しております。

京都駅八条口から歩いて七・八分という交通便の良さに恵まれ、遠くからの利用者も多く、幼児からお年寄りまで、気軽に利用いただいております。

現在、約五万九千冊の蔵書があります。これからも市民のニーズをよく見きわめてよい本を選び、市民サービスに徹することが、図書館職員の使命であると考えています。

加茂町立図書館

加茂町は、京都府の最南端に位置する人口約一万七千余の町です。恭仁京跡など多くの文化遺産と豊かな自然に恵まれた農業中心の町に、昭和五十六年より新興住宅地への入居が始まりました。現在、新旧住民の割合はおおよそ半々となり調和のとれた町づくりをめざしています。

町立図書館は、昭和六十一年四月一日に開館しました。町のほぼ中心にあり、旧加茂小学校職員室を増改築した鉄筋コンクリート平屋建、総面積四一四㎡の建物です。蔵書冊数は五万冊を目標とし、現在約四万冊となりました。

図書館開館までの歩みとして、府立図書館「あゆみ号」の巡回、昭和五十八年八月開室の新興住宅内の公民館図書室の活動があり、図書館建

設にむけて、住民の強い要望と大きな期待がありました。

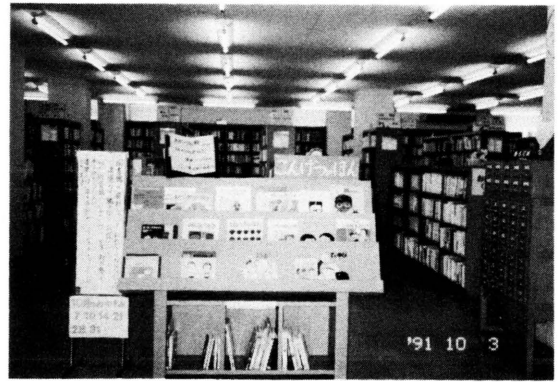


日常のくらしに役立つ図書館をめざし、町民の多くの方々に親しまれるように職員一同頑張っています。

平成二年度の利用状況は、利用者数三万六千五百八名、貸出冊数は八万二千八百二十冊でした。登録率は四十五%を越えましたが、これは、町内の半数の方にまだ図書館に足を運んでもらっていない、ということでもあります。本好きな人のための図書館にとどまらず、より多くの住民の方々に図書館を知ってもらいためのきっかけづくりとして、講演会、おはなし会、映画会など種々の行事を行なっています。

図書館とわたし

松田 武子



開館六年間の活動を経て、図書館を利用することが生活の一部となるよう一層努力したいと思います。

京都市中央図書館

〈10周年を祝う〉

京都市中央図書館設立10周年を迎えると共に、京都市社会教育総合センター並びに財団法人京都市社会教育振興財団の10周年となります。

その、10周年記念式典が11月17日(日)同総合センターホールで、盛大に行われ、京都市図書館14館が参加をしてお祝い致しました。

私が下京図書館に通い出したのは中学生の時だった。そこで、心ときめく『赤毛のアン』『愛の妖精』『ああ無情』等の本と知り合うことができた。一貫して、宗教的なものに感動をしたので、続いて『イエス・キリストの生涯』を読み、やがて教会に通い教理の勉強までした。(洗礼を受けるには至らなかったが)数々の物語は思春期の私にとって、生き方の目標に大きな影響をもたらしてくれ、精神の拠りどころとなった。

あれから二十五年経った今、三人の子供たちを連れて、再び下京図書館に通っている。

家庭では借りてきた本を夜、子供たちにせがまれ読んであげる。また、自分自身は育児、教育、家庭生活等のジャンルの本を読み、家族との生活を大切にする指針としている。一方、仕事をもつ私は、その知識、技術を高めるために産業、経済、歴史棚をよく利用する。この年になっても、仕事に関する試験等にチャレンジすることになっているので、図書館の本を借り勉強する。

又、仕事や家庭に疲れ、自分の生き方に自信がもてなくなった時、ジャ

ソルを問わず、片っぱしから興味ある本を手にし読む事になっている。

自分に勇気づけてくれる本と出会った時、そこから、又、新しく生き返ることが出来る。

このように図書館は私にとって生活行動の一部であり、リフレッシュできる場所として、本場に大切な所である。

週休二日制が整備されつつある現在、その余暇時間をフルに活用したいと思う。

そして、三人の子供たちにも、心をより豊かにしてくれる場所であることを伝えたいし、近隣の友達にも伝え、みんなで読んだ本について語り合えたら、コミュニケーションも広がると思う。多分、私は年老いても、元気であれば、図書館に通い続けるだろう。

今後とも、よろしく願います。

植柳小2年

笹川 阿津見

わたしは、本がすき。

だからときどき、おとうさんが本をかってくれる。でも1さつずつしか、かってくれない。

わたしは、それでも本がすき。

としょかんへいくと、よみきれないほど、たくさん本がある。

じぶんのすきなものがたりを、じぶんで、えらんでかえることができる。でも、いくら本がすきでも、ともだちといっしょに、くるのはあまりすきじゃない。

だって、みんな「はやく本をきめて」とせかすから、ゆっくり本がよめない。

としょかんで、わたしは、じゅうたんのしいてあるところへあがって、そばにある本だからえらんでいる。ときどきちがう本だから、えらぶときもある。

「京都市図書館10周年記念事業の一環として、『図書館とわたし』のテーマの感想文を広く一般に募集致しました。その中で、京都市下京図書館に寄せられた原稿をご紹介します。」

広報委員会だより

十一月一日発行になっている、会報の配布が遅れ、誠に申し訳御座いません。広報委員一同、深くお詫び申し上げます。

尚、次号発行の原稿を広く募集しております。図書館に関する情報「ニュース」を広報委員まで、お寄せ下さい。お待ちしております。